

田辺市における中学校武道必修化に向けた取り組み



田辺市教育委員会

和歌山県の田辺市教育委員会では、郷土の偉人「植芝盛平」が創始した「合気道」を通して、健やかな体とたくましい体力を身につけた生徒の育成や豊かな心を身につけた生徒の育成のために様々な取り組みを行っている。

中学校武道必修化に向けて、植芝盛平翁の生家跡を校区に持つ田辺市立明洋中学校が、本年度、体育授業に「合気道」を取り入れ、その取り組みをスタートした。

1. 田辺市の概要と郷土の偉人「植芝盛平」

和歌山県田辺市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置しており、温暖であり、比較的過ごしやすい気候の地である。また、

計45校である。合気道の創始者である植芝盛平翁は、田辺市西部の上の山で生まれ、現在でも生家跡が残されている。田辺市では、昭和44年に植芝盛平翁の功績を称え、「田辺市名誉市民」の称号を授与し、J R紀伊田辺駅前には、植芝盛平翁の記念碑が、また、市民が憩う扇ヶ浜公園には、銅像が建てられている。田辺市教育委員会としては、これまで植芝盛平翁が創始した「合気道」の歴史や精神を学び、その技などについて体験させることを通して、植芝盛平翁や合気道に対する理解を深め、郷土を愛する心を持った児童生徒の育成に努めてきた。

2. これまでの田辺市教育委員会の取り組み

平成10年度より、小学校5年生の副読本として『郷土の偉人 植芝盛平』を作成し、植芝盛平翁の生き方について学習をしてきている。また、平成17年度からは小中学校の総合的な学習の時間において、合気道体験教室を実施し、合気道を通して、相手を尊ぶ「和合

」マにご講演をいただき、午後には、合気会田辺道場の方々による演武、さらには実技講習を実施した。平成21年度には田辺市立小中学校の校長・教頭合同会において、管理職を対象に合気道についての講演を行い、植芝盛平翁の生き方や合気道の精神、また、各学校での取り組みについて研修を行った。

3. 武道必修化に向けて

平成20年3月に告示された「中学校学習指導要領」の武道必修化を受け、田辺市教育委員会としては、まず、武道が行える環境づくりをすることが第一と考え、平成21年度に市内のほとんどの中学校に畳を整備した。

このような中、昨年7月、校区に植芝盛平翁の生家跡がある田辺市立明洋中学校（生徒数367名）の佐武正章校長から「心身を鍛えるため、地元ゆかりの合気道を体育授業に継続的に取り入れたい」との申し入れがあった。計画では、本年度は10月から11月にかけて1



合気道創始者・植芝盛平翁之像



体育担当者による指導



田辺道場の方々による模範



田辺道場の方々による個別指導



生徒の授業風景



うお互いの願いの重なりが「融合」であり、地域の教育力を学校に取り入れ、学校と地域、さらに保護者が連携を密にし、教育活動を進めることが、教育的効果の向上に繋がると考える。

現在、田辺市の他の中学校で

も、学校の現状や地域の環境等を含め、合気道を体育授業へ導入することを検討している学校が数校ある。今後さらに「学社融合」を図り、できる範囲で合気道の体育授業への導入を進めていきたいと考えている。

4 明洋中学校における「合気道」の授業づくり

合気道を授業に導入するにあたり、明洋中学校としてまず行ったことは、体育の授業を行うのは、あくまでも体育担当者であり、道場の方に頼ってしまわないように、田辺道場の稽古に自ら参加するということである。稽古には体育担当の教諭と校長も同行し、一緒に稽古を行い、明洋中学校として主体性を持ち、強い意気込みで、取り組みを進めた。

次に、単元目標と単元計画についても、学校と田辺道場の方々の話し合いの中で、下記のように計画をした。単元計画は全8時間で、3時間目からは、田辺道場の方々を迎えての授業を進める。

表1 単元計画（1年生対象・全8時間）

時 間	学習内容
1 時間	・ガイダンス（武道を学ぶにあたって、武道の意義、学習の心得） ・基本動作の練習：礼の仕方、座り方・立ち方、構えなど
1 時間	・受け身の練習（後ろ受け身） ・足さばき・体さばきの練習
2 時間	・基本動作、体さばき、受け身の復習 ・〈技〉交差持ち小手返し
2 時間	・基本動作、体さばき、受け身、投げ技の復習 ・〈技〉交差持ち入身投げ ・〈技〉呼吸法
2 時間	・基本動作、体さばき、受け身、投げ技の復習 ・〈技〉片手持ち四方投げ（裏） ・各技の確認

（1）単元目標
① 合気道を通じて、礼儀を重んじ、相手を尊重する態度を養う。

（2）単元計画（表1）
1年生対象・全8時間。

② 授業の土台となる基本動作を身につける。
③ 対人的技能は、相半身・逆半身の掴み技から、基本の技と受け身を身につける。
④ 安全に練習を行う態度やお互いに協力して技の習得に努めようとする態度を養う。

5 今後の展望

中学校武道の必修化に向けて、田辺市教育委員会としては、現在、小学校で活用している副読本『郷土の偉人 植芝盛平』の学習を中学校の体育や体験学習に繋げていくことで、より充実した取り組みができるのではないかと考えている。植芝盛平翁の生き方や合気道について学ぶことで、体を鍛え、技を習得しながら、礼儀を重んじ、相手を尊重する態度を身につけるとともに、地域の伝統と文化に触れさせたい。

今回の明洋中学校の取り組みは、田辺市教育委員会が教育の柱として進めている「学社融合」をまさに実践した形である。学校の求める「合気道を導入したい」という願いと、地域の関係者が求める「合気道を発展させたい」とい